

○牧野標本館雑誌 (8) (檜山庫三) Kōzō HIYAMA: Miscellany from Makino Herbarium (8)

**ヌカボタデ** ヌカボタデの果実は3稜形であって、そのレンズ形のはコヌカボタデと云われている。しかし、多くの標本を見ると、両者はむしろ両極端形であるかのように入る。同じ株で両形の果実をつけたものをよく見かける。牧野先生が *Maximowicz* に送った控え標本 (Max. 220) で、'*Polygonum minus* var. *interruptum* Meissn.'

(この学名はかつてヌカボタデに当てられていた) と同定されたものは今云うコヌカボタデであった。大井次三郎博士 (国立科博研報 no. 26: 7) がコヌカボタデを区別されたのは、ヌカボタデの果実を3稜形と限定した (牧野, 植雑 28: 112) ためであったが、*Polygonum minutulum* Makino の syntype の一部にはコヌカボタデが含まれている。また小泉源一博士 (植物分類地理 9: 72) もヌカボタデに果実のレンズ形のものを含めた。ヌカボタデとコヌカボタデは地域を住み分けているようなことはない。そこでヌカボタデをコヌカボタデの品種として認めることにしたい。

**Persicaria Taquetii** (Lév.) Koidz. forma **minutula** (Mak.) Hiyama, stat. nov.

*Polygonum minutulum* Mak. in Bot. Mag. Tokyo 28: 112 (1914).—Nom. Jap. Nukabo-tade.

**ザラツキヤナギタデ** ヤナギタデの習性は多様である。全体に質の軟かいものも硬いものも、茎の立つものも下部の伏すものも、稀には全く地に伏すものもあり、花は早いものは春開花し、葉や花被に見られる腺点は苞や茎にまで及ぶものがあり、果実は時に3稜形で長さも2 mm から3 mm 余とかなりの巾をもち、葉の形にもかなりの長短広狭がある。また全体無毛のものから、葉の中央脈上に短剛毛の出るもの、葉縁毛のあるもの、葉鞘に粗毛を散生するもの、葉鞘口や苞縁に粗毛のあるものなどがあるが、一般に毛の量は多くない。毛の著しい型を原寛博士はザラツキヤナギタデとして区別されたが、更に、これはたぶん *Polygonum Hydropiper* L. subsp. *microcarpum* Danser の一部をなすものであらうと云われている (原, 植研 14: 73)。Danser はこの亜種を3変種に分けているが、その一つ var. *lenticulare* Danser はレンズ形の果実を有するもので、日本にも分布すると記しているから、これがザラツキヤナギタデに当るものと見てよいであらう。subsp. *microcarpum* は熱帯アジア型であると Danser は云っているが、日本のザラツキヤナギタデの分布は雑然としていてヤナギタデの無毛型と同一地域内に生じ、また両者の形質は連絡する。

**Persicaria Hydropiper** (L.) Spach forma **scabrida** (Hara) Hiyama, stat. nov.

*P. Hydropiper* var. *scabrida* Hara in Journ. Jap. Bot. 14: 73 (1938).—*Polygonum Hydropiper* L. subsp. *microcarpum* Danser var. *lenticulare* Danser in Bull. Jard. Bot. Buit. 3-8: 189 (1927).—Nom. Jap. Zaratsuki-yanagitade.

**ボントクタデ** ボントクタデで、茎や葉面や苞の背面にまで著しい毛の生えたものはケボントクタデの典型的なものであるが、毛の生える部分と量にはいろいろな段階のものがあって、終いには常品のボントクタデにつながってしまう。したがって両型は品種関係におくのが適當である。なおボントクタデはヤナギタデに酷似してくるが、前者の生時の花被をつぶして嗅げば臭気がある。

**Persicaria pubescens** (Blum) Hara forma **acuminata** (Fr. & Sav.) Hiyama, stat. nov.

*Polygonum Hydropiper* L. var. *acuminata* Fr. & Sav., Enum. Pl. Jap. 2: 474 (1878).—*Persicaria pubescens* var. *acuminata* (F. & Sav.) Hara in Journ. Jap. Bot. 17: 335 (1941).—Nom. Jap. Bontoku-tade.

**ネバリタニソバ** タニソバの茎に開出した有柄腺毛の生えたネバリタニソバは本州の近畿地方に知られていたが、四国の伊予滑床山（山本一、1908年8月5日）にも産する。タニソバの花序下の葉状苞は鋭頭のものもあって、この点では両品を区別することができない。また茎の節間に出る腺毛の量にも多少がある。なお上記標本では葉状苞が短小となって、ほとんど消失したものも見られた。

**Persicaria nepalensis** (Meissn.) H. Gross forma **adenothrix** (Nakai) Hiyama, stat. nov.

*Polygonum alatum* Hamilt. var. *adenothrix* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 23: 416 (1909).—Nom. Jap. Nebari-tanisoba.

### ○ヨコワミドロの新産地（山岸高旺）Takaaki YAMAGISHI: New localities of *Sphaeroplea annulina* (Roth.) Ag.

ヨコワミドロ属 *Sphaeroplea* の藻類は現在4種知られているが、吾が国ではヨコワミドロ *S. annulina* (Roth.) Ag. が東京・赤羽（小林・亘理）、駒場（東）、本州中部（岡田）、愛知・一宮（森）、愛知・大口村、安城市（神谷）などの各地から報告されているだけである。筆者は本種を今迄に下記の各地から採集したので報告する。いずれも5—7月頃に水田中から得たものである。従来、ヨコワミドロは珍藻の如く言われているようであるが、下記の地区以外にも、ふつうに産するものと考えられる。北海道（大沼、蘭島、月寒、中湧別）、新潟（糸生川、黒部、高岡）、群馬（板倉）、埼玉（大畑、中村、釜上、山根、肥土、上三沢、栃谷、小柱）、長野（松本、明科、四賀、上諏訪、茅野）、神奈川（西生田、登戸）、静岡（下賀茂）、石川（東金沢）、福井（松岡、東古市、武生）、滋賀（近江舞子）。（東京教育大学理学部植物学教室）。